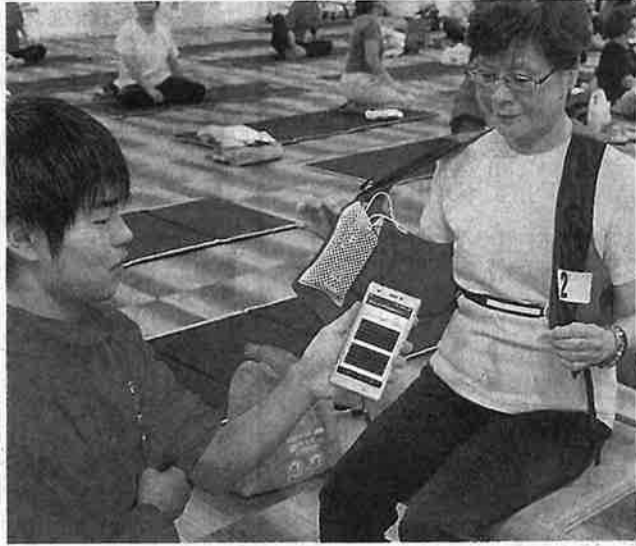


スマホで高齢者見守り

高松市が実証実験開始

国のIoT活用事業

高松市や香川高専、民間企業でつくる「スマートシティたかまつ推進協議会」は14日から、IoT(モノのインターネット)を活用した高齢者見守りシステムの実証実験を始めた。体に装着したセンサーで徘徊や転倒などのアクシデントに関するデータを測定し、家族らのスマートフォンに送る仕組み。実験は来年3月まで実施し、2019年度中の実用化を目指す。



実証実験では、被験者に装着したセンサーからスマートフォンに送られてくるデータを確認した—高松市内

実験は、総務省のIoT施設。香川高専が開発したサービスを活用した介護予防用センサーを65歳以上の高齢者の上半身に装着する。呼吸数や心拍数などのデータと、衛星利用測位システム(GPS)の位置情報、体の傾斜速度などの測定データを家族やケアマネジャーなど見守り者のスマホに送り、異常があれば警報で通知する。

この日、高松市の瓦町F L A G 8階「瓦町健康ステーション」で行われた実験では、運動教室の受講生約30人にセンサーを装着したベストを着てもらい、足踏みや前かがみ、寝返りなど11種類の動きのデータを計測。高専生徒がスマホにデータが正常に送られているかどうか確認したほか、想

定以外の動作にセンサーがどう反応するかなどについてもチェックした。

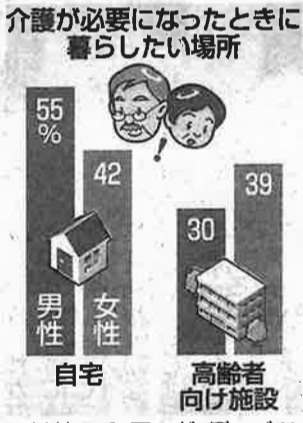
12月からは、市内の在宅高齢者約100人を対象に日常生活のデータを収集し、市の共通プラットフォーム「F I W A R E (フアイウェア)」を活用したIoTに蓄積。日時や天候、場所などのデータを重ね合わせ、高齢者にアクシデントが発生しやすい時間帯を予測するなど、実用化に向けた実験を行っていく。

市は「実験で得られたデータを活用して、見守り者の負担軽減や新たな介護予防策の充実を図っていきたい」としている。

夫55%「自宅介護希望」

民間調査 妻は施設もOK

自宅介護を希望するのは妻より夫。民間調査会社リサーチ・アンド・デベロップメントの調べでこんな結果が出た。女性は施設介護を希望する割合が自宅介護とほぼ同程度だったが、男性は自宅介護の希望が過半数を占めた。配偶者を「心の支え」とする割合も男性が女性を上回った。



※リサーチ・アンド・デベロップメント調べ、50~79歳の既婚男女が対象

同社は「退職するまで家庭と職場が主な生活の場である男性よりも、子どもなどを通じて近所の付き合いが多い女性の方が新しい人間関係や生活環境に対する適応力が高い傾向にある」と分析している。調査は昨年10月、50~79歳の既婚の男女を対象に訪問と郵送で実施し、1230人から回答を得た。

介護が必要になった時に暮らしたい場所について、男性は55%が「自宅」と回答。「高齢者向け施設(30%)」よりも25%高かった。一方、女性は「自宅」が42%、「高齢者向け施設」が39%とほとんど差がなかった。配偶者が自分にとって「心の支え」と回答した割合は、男性の自宅介護派が87%と最も高く、男性の施設派の80%が続いた。

配送業者に路駐認め

東京専用スペース試験運用

荷下ろし場所の確保に苦慮している配送業者の負担を軽減しようと、警視庁は全国に先駆け、業務中の貨物車に限り路駐車を認めるスペースを設け、試験運用を始めた。インターネッ ト通販による戸別配送の増加に加え、東京五輪・パラリンピックを控え、関係車の増加で道路の混雑が見込まれる中、違法駐車による渋滞や事故を減らす狙いがある。

都内では4月以降、3カ所で試験運用を開始。標識に「貨物集配中貨物車に限る」と明記し、利用時間は配達業者の業務実態を踏まえ、午前9時から午後9時までとした。今秋までに子どもが多い小学校周辺や十分な幅がない道路を除き、100力所以上を選定。一部は歩道を削るなどして敷地を確保し、2019年7

参加無料
10月 20・21日 10:00~17:00
ハロウィンの飾り付けにfood!
可愛いモンスター
マスクングテープとライトで
開催! 10月 20日
後ろ姿まで愛らしい